

- 手は、第2の脳 ... 手の指と手の平は運動野では約 $\frac{1}{3}$ 、感覚野では約 $\frac{1}{2}$ を占める
為手指を動かすことにより脳に与える影響がとて大きい。つまり
手指を動かすことが脳の発達に良いということ。 ※「ハンフィールドの
ホムンクルスの図表」

↓

手の働きの大切さ。話し言葉と手指の働きの担当する
部署は同じ。人との関わりと、手指の働きの豊かさが
話し言葉の土壌を耕す。造形遊びは言葉の発達に大きな
力になっていく。

- 幼児の絵とは ... 胸の思いを具体的に伝える話し言葉と心の中を自ら記録し伝えること
できる唯一の表現手段。幼児の絵は具体的な言葉。幼児期に
表現することのイメージを「ハンパン」にし、言葉で語り、絵でお話する力を
育てておく。 ⇒ 「描き・語ることは、豊かな学力・感性・人間形成
の土台となる。」

- 積極的に生きること ... 自分を表現することは、積極的に(能動的)に生きること。たくさん
鬼力ある事柄に出会い「心」を動かす経験をしてほしい。
- 感覚遊びの大切さ ... 自分の働きの力で素材が変化する楽しさを味わったり、汚れることを
気にしないで「心」をとき放つ。皮膚感覚や運動感覚を総動員して
全身を使い、友達と向きあわせに「楽しい」を共有しながら遊
ぶ経験ができる。又、もの(感覚)と関わることで感じる様々な
感情(心地良い、苦手等)を自分の中に受け入れ、それと折り合いを
つけつき合っていく(活動していく)という構造は人間関係を構築
していく営みにも通じているのではないかと。

- 話し言葉獲得期の栄養素 ... ①手の働きを太らせること(1歳を過ぎに頃) ②道具の使用
③変化する素材・水等の感覚遊び。 ④仲間とともに展開する

<0歳児>

目的を達成する為におがえりやハイハイ、手を伸ばしてたりする

⇒ 協力的な動作 が土台となり 「こま押し(道具を使う絵)」に繋がる

※ 遊びの中で動きをたくさんするように玩具を使い誘導する。

<0歳児・活動>

★うつぶせの姿勢で行うことも大切。まだ「うつぶせが上手に出来ない子には丸めてバスタオルを胸の下に入れてあげると良い。又、共感しながら!! (ロール状)

(口田ほかよし保育園での活動の実例)

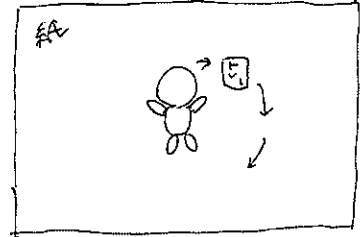
パン粉

ツラツラの感触は大丈夫でうたごえでもツラツラの感触に不安気...
→水で少し入水するとしっとりして安んずることができる。

天使の輪

・大きな紙の上(真ん中)に子どもをうつぶせにする。
・糸の具のトレーを少しずらすらしていく

⇒ 糸の具のトレーを追って体を回転させていくことにより
車輪状に糸の具が"つく"



<1歳児>

グリーグレ丸 → 自我を表現するために

- ・作品を作るのが目的ではなく楽しいから描く、感覚的な遊び。又、感覚的喜びを得られる素材として、スポンジ、粘土(フィルムセホースで)、ロンクタ、ホ、フチマシ等がある。手作り教材の研究は大切!!
- ・絵 = おはなし、丸にたいて話していく
- ・書き言葉の工台、はなし言葉を育んでいける

(実例)

ミール貝

絵本「コロコロ」を素材に。台紙に線のみ(絵本の中の)書いておき、子どもが丸ミールを貼る。ポイントは、どんな場面なのか 話しながら作っていく。

アヒル

ポイントは、聞いたときに 「何に見える?」と聞く。

(実験) 保育者との関係に絵の違いはあるのか。

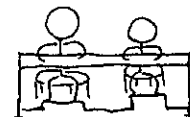
- 関係が築けていない担任(新任) → びくびくして小さい
- 関係が築けている担任(持ち上がり) → 大胆な描き出し!!!

という結果になった。

信頼関係大切!!!

(その他で大切にしていること)

- ・身辺自立も大切。なので、おむつ替えや着脱等時間をしっかりと取る。やる気を大切に。
- ・絵を描く時はカガ(は)いるようにしっかり地面に足を付ける。
又、食事の時も同様で、イスに座った時に足が地面につくように一人一人に合った高さのこたまり(シート)を置いている。



〈4歳児〉(実例)

- ビュンビュンごま** ・ ビュンビュンごまの回し方を100個 子ども達のみで考える。
 その中で自然と子ども同士で教え合ったりする。 → 発想力が豊かになる

〈5歳児〉

- カルタ** ・ 最初の文字から文を考えそれに合わせた絵を自分で描く。
 オリジナルカルタを作り遊ぶ

※ 年齢別の絵の発達については資料をご覧ください。

☆ 感触遊びをする時には… ☆

- ・ 大人は体をはって、大担に!!
- ・ コロナ過で出来ないこと多いが、だから“できない”ではなく“どうしたら”できるか”を考える
- ・ 苦手な子に対するアプローチ
 - ① まず、楽しんでいる子の姿を見せる。
 - ② 楽しめる子と苦手な子を一組にする等組み合わせを考える
- ・ 三項関係

→ 「子ども同士」「子どもと保育者」、不安や楽しい気持ちを見線でご伝えてくる。その時にしっかりと受け止め共感することにより、安心できる。より楽しくなる。
- ・ 活動の意味を保護者にわかってもらうことが大切。

(感想)

口田様はよい保育園では、たくさん感触遊びが行われていてどの活動もダイナミック且つのびのびと取り組んでいる印象を受けて。又、ぬりたくりを活用し製作物にしては、「天使の輪」や「コロコロ」のシール貼り等 アイデアが豊富であると感じた。活動を行う為に職員同士の話し合いはもちろん、専用の道具があたり使い方の統一等、園全体で環境作りをすることも大切なのではいかと思う。感触遊び、絵を描く、その他の製作、身辺自立、散歩、食事、友達との関わり等が、成長する上で全て繋がっていくものだと改めて感じられた。そして感触遊びに関しては汚れることが多い為、保護者にはぜひ大切なのを理解してもらえるようは説明をする努力もとても大切である。実例が多く取り上げられ本も執筆されているので、参考にしながら少しづつ真似ができる活動を取り入れていけると良いのではいかと思う。